

森はCO₂の貯蔵庫、木材は循環する資源
おいしい水は森からできる

やる木通信

中予地方局
農林水産振興部森林林業課

TEL:089-909-8767

FAX:089-909-8397

MAIL:chu-ringyo@pref.ehime.lg.jp

本紙のWEB版はコチラ→



林業ICT活用人材育成事業（中予地方局予算）

森林林業課では、令和4年度に引き続き、県内在住の学生生徒等にICTを活用した森林の管理に興味をもってもらい、林業ICT技術者の確保・育成を図るため、「林業バスツアー」、「林業就業説明会」及び「林業事業体インターンシップ」を実施しています。

今年度は、各学校の要望も踏まえ、バスツアー2回、就業説明会3回、インターンシップ1回実施しました。

このような取組みを積み重ねることで、若い世代の林業・木材産業への就業意欲の醸成に努め、新規就業者を確保育成し、地域活性化と森林整備の推進を図っていきたいと考えています。



林業バスツアー



林業就業説明会



林業事業体インターンシップ

伊予中学校森林環境教育

令和5年10月24日（火）に伊予市立伊予中学校で生徒206名を対象とした森林環境教育を開催しました。

初開催となった当教育は、森林や林業への興味・関心を深めることを目的として、県普及指導員2名が「森林・林業の果たす役割」をテーマに講義等を行いました。

具体的には、森林の働きや適正な管理方法、さらに林業や木材産業の現状について講義を行い、その後、林業の現場で活用されているチェーンソー関係の装備一式を生徒が着用し、林業を身近に感じられる体験内容も盛り込みました。

体験した生徒からは、「予想以上に重かった」、「チェーンソーを使用するときには身を守る防護服があるのは知らなかった」など、様々な感想が寄せられ、今回の機会を通じて、森林や林業への興味・関心をより一層深める取組みとなったと感じています。

今後も管内の小中高校などで森林や林業への興味関心を深め、担い手の増加に繋がられるような取組みを継続していきたいと考えています。



森林環境教育の実施状況



令和5年度 スイングヤーダによる小規模皆伐研修会

当管内における搬出間伐や主伐の素材生産作業は、森林作業道を開設し車両系作業システムで行うことが主流ですが、傾斜が急で路網整備が困難な場所では、架線系作業システムを推進していく必要があります。

こうした状況を踏まえ、スイングヤーダを用いた簡易架線集材システムの普及促進および架線技術の習得を促すことを目的とした小規模皆伐研修会を令和5年12月12日(木)に実施しました。

愛媛県林業研究センター(人材育成室)の職員を講師に迎え、架線系集材の概論、先柱の設置方法、伐倒木の集材方法などについて、実演を交えて説明を受けました。

集材効率を上げるには、先柱やスイングヤーダの設置箇所を見極める必要がありますが、全木集材によって地拵えが省略でき、自動荷外しフックや繊維ロープを利用することで作業効率や安全性が向上することなど教示頂きました。



集材状況



先柱設置作業の実演



エリートツリーを活用した低コスト再造林及び苗木生産施設研修会

伐採収入に対して再造林に要する費用が高いことが、再造林が進まない大きな理由となっています。木材価格の大きな上昇が期待できない状況下で森林所有者の再造林への意欲を喚起するためには、再造林に係る費用を下げ、森林所有者の負担を減らすことが必要です。

令和5年10月6日(金)、管内の低コスト再造林の普及を図ることを目的として、エリートツリーを活用した低コスト再造林及び苗木生産施設研修会を開催しました。

コンテナ苗は植栽適期が長く、植付が容易で活着率も高いという利点があり、成瀬緑化産業株式会社重信支店のコンテナ苗生産施設において、一連の生産工程を見学しました。

エリートツリーは「第1世代精鋭樹」のうち、優良なもの同士を人工交配により、その中からさらに優れた個体を選んだものです。久谷ふれあい林では、林業研究センターが「スギエリートツリー大苗を活用した下刈回数低減による低コスト再造林の実証」に取り組んでおり、植栽3年で下刈が不要な大きさとなり、下刈が1度で済んだという実証結果が報告されています。



コンテナ苗の生産施設



久谷ふれあい林のエリートツリー



北条林研 意見交換会

令和5年8月24日(木)、北条林研有志の発案により、北条林研会員9名、北条女性林研会員3名のほか、松山流域森林組合、(一社)中予森林管理推進センター、松山市、森林林業課が北条ふるさと館に会し、「これからの森林管理を考える」ことを目的とした意見交換会が開催されました。

意見交換会では、林研会員が抱えている、所有森林や林業に関する心配・不安ごとに焦点を当て、参加者はそれぞれの立場で解決の糸口を探すことに努めました。多くの助言や提案が出され、有意義な時間となりました。

今後も北条林研の方々には、同地区の林業活性化のため、様々な活動を通じて、地域を盛り上げていただきたいと思っております。



意見交換会の様子



森林現地調査支援システム(フォレストトラック)の操作研修会

令和5年11月14日(火)東温市役所川内支所第3会議室にて、森林組合・市町職員を対象とした森林現地調査支援システム(フォレストトラック)操作研修会を開催しました。

フォレストトラックは、森林の境界や現況を容易に把握できる現地調査用ソフトです。インターネット環境は必要なく、携帯端末で場所を選ばず操作でき、携帯端末に搭載されたGPSによって現在位置を即時に把握でき、移動軌跡や調査時のメモの記録も可能です。

管内全ての森林組合・市町に対し、フォレストトラックを格納したスマートフォン・タブレット端末の配備が済んだことから、森林の調査など様々な場面で活用されることを期待しています。



研修の状況



報告 林業先進地視察研修(佐伯広域森林組合)

佐伯広域森林組合(大分県佐伯市)は、植栽から伐期までを50年サイクルで行い、自らが抱える大型製材工場を大いに活用しながら持続可能な森林経営を行う「佐伯型循環林業」を提唱、推進しています。同組合では、苗木生産から植栽、保育、皆伐、集荷、製材を一貫して行い、年間の素材生産量は約11万m³に達するほか、自らが伐採した場所の再造林率は100%となっています。佐伯型循環林業の実施体制を構築し、推進するなかで、地域に雇用が生まれ、請負班の中には若くして高収入を得る人もいます。

同組合では、立木を購入し伐採しており、再造林と5年間の下刈を実施することを森林所有者に約束し、再造林を進めています。大分県森林再生基金※からの出資金、造林補助金等で造林・下刈費用の9割が賄えることから、森林所有者の負担が減り、再造林を進めやすくしています。

主伐時には全木集材し、未利用材も回収してチップ化し、バイオマス燃料として販売しています。立木買い時に林地残材も買取り、燃料として販売、その収益を再造林費用に充当しています。主伐時に林地を綺麗にしておくこと、森林所有者が負担する地拵え経費を抑えられることも重要だと言います。

再造林から下刈においては、地拵え、植栽、シカネット設置・補修、下刈(5年生まで)の仕事を同じ請負班に作業させており、「請け負った現場は山にする」という意識を持たせているそうです。このことが、作業班の責任感の醸成や丁寧な作業に繋がり、さらには仕事の依頼が増えるという好循環を生んでいるようです。また、請負班の仕事が一年間を通じて途切れないので、請負班が労働力を確保しやすい環境となっています。

同組合のように作業班の仕事を確保し、収入を増やすことができれば、造林や保育を担う労働者の確保に繋がります。今回の視察内容を業務に活用していきたいと思えます。



木材市場



地拵えの状況

※大分県森林再生基金からの出資金(5万円/ha)

出荷者(森林所有者・素材生産業者)・木材市場・製材工場等がそれぞれ1m³当たり20円・10円・20円を出資し再造林費用を負担するもの

森林を「見て触れて作って知る」親子わくわく教室の開催

令和5年8月5日(土)、松山市のテクノプラザ愛媛ほかで、松山地区林材業振興会議の主催による親子森林・木工教室を開催しました。午前と午後の2部構成で、午前中は、松山流域森林組合の搬出間伐現場と新日本建設(株)の大型木造建築物を見学、午後は、木工教室を実施しました。約30組の小中学生の家族80名にご参加頂きました。

間伐現場では、「木の伐倒は迫力があり、大きな機械を使って玉切りするのはとても見応えがあった。」、「森林が私たちの暮らしに大きな役割をもたらしていることが理解できた。」、木工教室では、「木の良さ、香り、温かさを改めて知る貴重な体験となった。」、「子供とはじめての木工体験で、出来上がりも満足し充実した一日となった。」など、主催者として喜ばしい感想を多く聞くこともでき、木育の重要性を改めて感じたイベントとなりました。



わくわく教室開催状況

下刈り軽減を目的とした「防草シート」実証試験の経過報告

中予地区林業研究グループ連絡協議会では、松山市内の山林で、下刈り回数の軽減による低コスト造林を目的とした防草シートの実証試験に取り組んでいます(詳細は、令和4年度やる木通信NO.47をご覧ください)。防草シートは、令和5年1月にスギ植栽地に敷設し、定期的に雑草木の繁茂状況や防草シートの腐食・破損度合いの経過観察を行う計画で、今回、一夏経過した令和5年10月に調査を行いましたので、その概要を報告します。

右の写真のように、防草シート周辺は、雑草木が繁茂していましたが、シート施行箇所は防草効果が認められ、植栽木が被圧されている状況ではありませんでした。雑草木のうち木本は、アカメガシワ、センダン、カラスザンショウなど、草本はコムラサキシクブ、ススキ、シダ類の生育がみられ、シートを敷設していない対象区も同様な樹種の生育がみられました。

また、シートの剥がれや破損等は、殆ど発生していませんでした。

今後も、追跡調査を行い、シート施工の効果を確認していきたいと思っています。



雑草木の発生状況(近景)



雑草木の発生状況(遠景)

農林水産祭参加「全国林業経営推奨行事」林野庁長官賞受賞

令和5年度第62回全国林業経営推奨行事におきまして、坂本林研グループの会員である西口木材の西口勇人氏が、林野庁長官賞を受賞されました。

本表彰行事は、森林の適正な管理と林業技術・経営の改善に努め、林業の持続的かつ健全な発展に寄与している経営体を表彰するものです。

西口氏におかれましては、早くから高性能林業機械を導入するなど、機械化の先駆者として地域林業を率先するとともに、架線集材技術の伝承に尽力されています。また、針広混合林の多様な森林づくりに取組まれているほか、新規就業者の研修を受け入れるなど、担い手確保にも積極的に取組まれていることが高い評価を受け、今回の受賞となりました。

今後も、地域の森林林業の振興のためにお力添えを賜りますようお願いいたします。



左 西口氏所有山林状況 右 西口勇人氏



企業の森づくり活動

管内では、(公財)ニッセイ緑の財団、(株)伊予銀行、(株)愛媛銀行及び三浦工業(株)の4企業及び法人が、県や(公財)愛媛の森林基金等と「企業の森づくり活動協定」を締結しており、森林整備や森林ボランティア活動を実施しています。

| 企業名 | 実施日 | 参加人数 | 場所 | 内容 |
|--------------|--------|------|-----------------------|-------------------------|
| (公財)ニッセイ緑の財団 | 9月2日 | 53名 | ニッセイ東温の森(東温市井内) | 間伐体験 等 |
| (株)伊予銀行 | 9月23日 | 21名 | 伊予銀行エバーグリーンの森(東温市松瀬川) | 下刈り体験・木工体験 等 |
| | 11月23日 | 47名 | 伊予銀行エバーグリーンの森(松山市久谷) | 下刈り体験・木工体験 等 |
| (株)愛媛銀行 | 10月21日 | 33名 | 愛媛銀行ecHoの森(松山市食場町) | 下刈り体験・枝払い体験・間伐見学・木工体験 等 |
| | 12月4日 | 35名 | 愛媛銀行ecHoの森(松山市食場町) | 森林散策・しいたけ植菌体験 等 |
| 三浦工業(株) | 11月25日 | 36名 | 三浦工業ミウラの森(松山市立岩米之野) | 伐倒デモ・枝払い体験・森林散策・木工体験 等 |



(公財)ニッセイ緑の財団



(株)伊予銀行



(株)愛媛銀行



三浦工業(株)

また、近年、森林のCO₂を吸収・固定する働きが地球温暖化防止に大きく貢献していることが注目されていることから、愛媛県では、「企業の森づくり」による環境への貢献度を数値化するため、独自の制度として、平成21年度に「愛媛県企業の森づくりCO₂吸収認証制度」を創設しています。今回、ご紹介した4企業及び法人においても、本活動の森林整備によるCO₂吸収量が認証されており、CO₂排出量削減やSDGsの達成に向けた活動に感謝申し上げます。



えひめ森林公園に新しい大型木製遊具が完成！！！！

えひめ森林公園では、園内の魅力向上を図るため、新しい木製遊具等が設置されました。

眺めの良い第2林間広場周辺には、フォトフレーム型の大型木製遊具として「結(ゆい)のブランコ」、鳥の目線で森林散策ができる「キャノピーウォーク」、さらにウッドデッキからの眺望が楽しめる、休憩スポットにも利用いただける「ツリーハウス」が新たにオープンしています。

また、第1林間広場には、可愛い球体型のベンチ「みのむしベンチ」も設置され、リフレッシュしながら休憩することもできます。

ぜひ、リニューアルされたえひめ森林公園に遊びに来てください。



結(ゆい)のブランコ



キャノピーウォーク



ツリーハウス



みのむしベンチ



森林環境教育〔しいたけ植菌体験会の開催〕

中予管内の2校の小学校、日浦小学校(1/30)、西谷小学校&幼稚園(2/29)において、椎茸の植菌体験会を開催しました。

日浦小学校では、中予地区林研グループの中上会長にも指導してもらい、5年生、5人が一人2本の原木に穴をあけ、成型菌を植菌し、仮伏せする場所まで運び、寒冷紗で覆いました。

西谷小学校では、東温市林業研究グループや北条林業研究会、北条女性林業研究グループ会員と協力し、全校児童28人と隣接する幼稚園児5人が、45本の原木に穴をあけ、成型菌を植菌した後、雨の中、仮伏せする場所まで運び、寒冷紗で覆いました。

各校とも、4～5月頃、菌の伸長が認められたら、本伏せを行うこととしています。みんな、しいたけ大好きな人に成長してほしいと願っています。



日浦小学校での植菌体験



西谷小学校での植菌体験



愛媛県産乾しいたけ生産の振興

第65回愛媛県しいたけ共進会の各部門において、賞を受賞されました。

おめでとうございます！



近年、愛媛県の乾しいたけ生産量は減少傾向にあり、令和4年は年間を通じて降水量が少なく、春の生産量に影響する1～2月の気温が低いなど気象の影響を強く受けたことや、高齢化等にもなう生産者の減少により、令和4年の生産量は前年を下回る約103トン(対前年比81%)にとどまっております。また、令和5年の春子の作柄につきましては、1月中旬の雨と気温の上昇により、2月中旬から一斉に発生したものの、3月上旬に一時夏日を記録するなど、急激な気温上昇により発生が短期間で終了した結果、収穫量は令和4年の7～8割程度となり過去にない不作です。なお、令和4年の価格は、県森林組合連合会の市売り平均で4,028円/kg(対前年比111%)と上昇しました。

愛媛県では今後とも「担い手の確保」及び「収量の安定化」、「消費の拡大」に取組み、生産量の維持及び価格向上に努めてまいります。



| | |
|---------|----------|
| 左から、知事賞 | 西下 忠士さん |
| 林野庁長官賞 | 森田 美喜夫さん |
| 農林水産大臣賞 | 袋田 直裕さん |
| 林野庁長官賞 | 大田 誠雄さん |
| 知事賞 | 橋本 敏彦さん |



大型木造施設(木造3階建て&新日本建設木材加工場)の建設ラッシュ



3階建てCLT木造(仮)緑町マンション

今年度、松山市緑町に県内で初めてとなる3階建てのCLT集合住宅が建設されました。

当住宅は、2・3階床版及び住戸の界壁部分にCLTを活用することで、耐火性能と遮音性能の向上を図っています。

また、(一社)愛媛県木材協会が開発した木造トラス「媛トラス」を活用して、新日本建設(株)(松山市)の恵原町木材加工場「WOOD FACTORY」が建設されました。

こちらは、21m×40mの大空間を実現した大型木造建築となっており、CLTを壁や床に使用し、それらを現し仕上げにすることで、コストダウンを実現しています。

このように、民間施設においても、これまでの鉄骨造(非木造)から木造への転換が着実に進んでいますので、是非、建物を建設する時は、木造化の検討をお願いします。



恵原町木材加工場「WOOD FACTORY」



林道整備事業・治山事業関連

今年度完成しました林道工事、治山工事をご紹介します。



東温市が事業主体で林道「上林河之内線」の改良工事(法面工等)を施工しました。



県営治山工事で東温市の湧水地区に「治山ダム」を施工しました。



県営治山工事で伊予市の奥大栄地区に「地すべり防止工」を施工しました。



県営治山工事で松山市の北浦北地区に「吹付法砕工」を施工しました。



森林土木事業の優良建設工事表彰

今年度の表彰は、東温市の株式会社富久様が、愛媛県優良建設工事知事表彰、並びに愛媛県森林土木協会優良工事表彰をダブル受賞されました。栄えある受賞おめでとうございます。

これからも適切な施工管理と安全対策、また地元住民との綿密な調整で、地域の山地災害防止のため、そして森林土木事業の推進に、ご尽力を賜りたいと存じます。



黒岩地区の治山ダム



(株)富久の皆様の喜びの表情です。(本社前にて)



現場代理人の重信幸輝様



お知らせ 森林経営管理制度(新たな森林管理システム)について

「森林経営管理制度」とは、

適切な管理が行えない森林について、市町が森林所有者の意向のもと預かり、①経営に適した森林は、「意欲と能力のある林業経営者」に委託し、木材生産を通じた施業を行い、②経営に適さない森林は、「市町」が森林を管理し、森林の公益的機能の維持・向上を図る制度です。

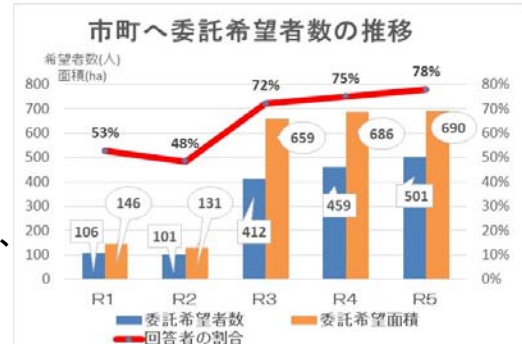
各市町は、(一社)中予森林管理推進センターと協力し合い、意向調査や地区説明会、森林経営管理制度進捗管理システムの開発、現地調査による森林判別、集積計画作成や市町経営管理事業の支援等を行ってきました。主に、1年目は意向調査の実施、2年目は、前年に意向調査を実施した箇所の森林経営管理権の取得補助、3年目は、前年に「経営管理権」を取得した箇所の市町経営管理事業(切り捨て間伐)の実施支援をメイン業務として取組み、令和6年度以降は、年間を通じた業務量を確保できる見通しとなっています。

令和元年から5年まで実施した意向調査については、調査対象森林面積19,299haのうち、28%にあたる5,390haを実施しました。調査対象者数は延べ3,858名で、回答者数は2,237名、回答率58%となっており、面積では3,379ha(63%)となっています。

このうち、市町へ委託を希望する回答者数は、7割を超える1,579名、面積では2,312ha(68%)と「市町に任せたい」という人が多い結果となっています。

市町へ委託を希望する森林について、現地調査を行った結果、これまで426haを市町が自ら管理する森林として「経営管理権集積計画」として公告しています。令和3年度からは市町が管理する森林について写真のように随時切り捨て間伐を実施しており、これまでに263haを発注しています。

現在のところ、意向調査対象森林は、森林経営に適さない「環境林」が多く、「市町経営管理事業」を実施しているところですが、将来、林業経営に適した「経済林」として見込みがある森林については、適宜「経営管理実施配分計画」の作成を目指し、「意欲と能力のある経営体」に経営管理を再委託する体制づくりを構築したいと考えています。



切り捨て間伐実施後、明るくなった状況



お知らせ 新規採用職員の紹介(県森林林業課) 令和6年1月1日採用

令和6年1月1日付で愛媛県職員(林業職)に新規採用されました愛媛県中予地方局森林林業課主任の正月公志です。17年ぶりに地元の愛媛県に帰ってきました。前職は、森林管理署の職員として北海道等でヒグマの生息地の保全や東日本大震災で被災した海岸防災林の再生活動等を行っていました。

これから愛媛県のことを学んでいき長期的な視点で地域に根差した森林の管理に携わり、地元へ貢献できるように頑張りたいと考えています。よろしくお願いいたします。

